

国語科学習指導案

日 時 令和7年5月21日（水） 5校時
 児 童 網走市立網走小学校5年1組27名
 指導者 鈴木 大輔

1. 単元名 話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう

教材名 『きいて、きいて、きいてみよう』

2. 児童の実態

- 『ひみつの言葉を引き出そう』では、友達の話をよく聞こうとしたり、会話の流れを想定しながら話そうとしたりする姿が見られた。
- 普段の授業において、一部の児童は友達の話の中心を捉えることができず、要点を理解することができない。

3. 指導事項

◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。（知(2)イ）

◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる（思A(1)エ）

○話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。（知(1)イ）

○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること（思A(1)ア）

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ウェビングマップを用いて質問とその答えを関連付けて整理している。 ②報告の際に書き言葉を意識して簡潔な表現にまとめている。	①インタビューの目的に応じて、相手のよさを引き出せる質問と予想される答えを想定し、話題や構成をウェビングマップにまとめている。 ②話し目的や相手の意図に応じて、言葉を言い換えたり追加したりしながら話を聞き、自分の聞き方に関する考えをもつことができる。	粘り強く話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもってインタビューをしたり、報告したりしようとしている。

5. 単元で付けたい力

◎役割に応じた「きくこと」について自分の考えをもち、話合いに生かす力

本単元は、インタビューしたり、その内容を報告したりすることを通して、自分の役割の「きくこと」で何が大切なのか、自分の考えを形成する単元である。

単元で付けたい力にある『役割に応じた「きくこと」について自分の考えをもち』とは、役割毎に「きくこと」の意味が異なることに気付く、「きくこと」で大切なことを見出すことである。「きき手」として大切なことは、話題と目的に応じた質問をする力である。相手のよさを引き出すために、相手の答えを正確に受け止め、話題が逸れないようにしたり、即時的に広げたり、深めたりする質問をすることである。「話し手」として大切なことは、相手の意図を捉えながら質問に対応する力である。できるだけ詳しく話したり、意図が分からない質問には尋ね返したりと、相手が何を知りたいのかを考えながら質問に答えることである。「記録者」として大切なことは、聞いたことを正しく記録に残す力と、話題の中心を意識しながら聞く力である。「きき手」と「話し手」の聞く目的や意図を捉えながら、大事な点を把握しながら聞くことである。話合いに生かす力とは、習得した資質能力を話合いの場で実践することである。

児童の実態から、子供たちは話の中心を捉えることや質問への応答の仕方ですぐ戸惑うことが予想されるため、次の3点の手立てを講じる。

- 単元内に時間的な余白を設け、言語活動を通して話の中心を捉えることや質問への応答、記録の仕方に繰り返し取り組ませるとともに、学びの山を用いて学習過程を図式化・可視化させることで、自分の到達度や課題に気づき、学びを自己調整しながら習熟を図れるようにする。
- 話し手の目的や自分が聞こうとする意図を考慮して聞くために、相手から引き出したい内容を明確にし、質問と予想される回答をウェビングマップに書き表す。
- 児童によって「きくこと」に関する理解や実践の到達度に差が見られることが予想されるため、実際の動画を視聴してやりとりを可視化させることで、共通の見方を持ち、どの子も「きくこと」で大切なことを実感を伴って理解できるようにする。

6. 単元計画 ※主学態は単元を通して評価する。

時	主な学習活動
1	単元の見通しをもつために、インタビューの様子を見たり、インタビューを試してみたりして、「きくこと」について考えを深めるために必要な学習活動を考えて学習計画を立てる。
2	目的や意図が明確な質問を考えるために、相手から引き出したい内容を明確にし、相手のよさが引き出せそうな質問と予想される反応をウェビングマップに書き表す。 【知・技】【思・判・表】
3	目的や意図を考えて話の内容を捉えたり報告のメモをまとめたりするために、それぞれの役割で気を付けることを意識しながら1回目のインタビューを行い、気付いたことをメモする。 【知・技】【思・判・表】
4 (本時)	役割に応じた「きくこと」について、自分の考えをもつために、1回目のインタビューの動画で気付いたことを交流し、きき手に焦点を当てて「きくこと」で大切なことを考える。 【思・判・表】
5	身につけた力を自覚し、活用するために、グループのメンバーを変えて質問する内容や構成を考える。 【知・技】【思・判・表】

6	役割に応じた「きくこと」について、自分の考えを深めるために、2回目のインタビューを行い、「きくこと」について考えたことを伝え合い、友達や1回目の自分の考えと比較することで、「きくこと」についての自分の考えをまとめる。 【思・判・表】
---	--

7. 本時の目標

1回目の自分たちのインタビューと1時間目の教師のインタビューとの比較を通して、新たな一面を引き出せる質問について考え、「きき手」の「きくこと」について自分の考えをもつ。【思・判・表】

8. 本時の指導(本時の目標、課題・まとめ、9つのフレーム、評価)

過程	教師の働きかけ	児童の活動	評価規準及び研修内容
向 か う	○インタビューを通して感じたことや気付いたことを共有し、本時のゴールを確認する。 ○補助発問 ・よさは引き出せていたかな？ ・よさや人柄を引き出すとは？ ・最後は何かできるようになればよい？ ・そのために、今日は何をやる？	○単元のゴールを達成するために、本時では何を学習すべきか<u>学びの山</u>を基に考える。 予想される児童の反応 ・ところどころ上手いかなかった ・最後はそれぞれの役割で大切な「きくこと」について考えをもてればよい。 ・どうしたら上手くなるのかな？	学びに向かうための工夫 【問題意識をもつための工夫】 学びの山を使って単元のねらいと学習進度を確認することで、本時の学習内容が明確になり、主体的に学習に取り組むことができるだろう。
	よさや人がらを引き出すには、どうすればよいのかな？		
深 め る	○児童のインタビュー動画やウェビングマップを提示し、前時までの取組を価値付ける。また、単元1時間目の教師の「深める」ウェビングマップを提示することで、それぞれのよさを比較できるようにする。 ◎それぞれのよさはなんだろう？ 〈質問の種類〉 ①広げる よさ:相手の色んな一面を知れる。 マップの形:太陽型・蜘蛛の巣型 ②深める よさ:新しい一面を詳しく知れる。 マップの形:ヘビ型・数珠つなぎ型 ②よさを追求 →どちらかだけでよい？ →どんな時に広げて、どんな時に深めたらよい？ ・新しい一面が出そうな話題を探す時 →深めるときにはどのように聞けばいい？ →そこまで想定はできないですね？ ・想定外なら相手の言葉をもとに ・5W1Hを使う ○自分のウェビングマップを振り返り、追加の質問を考えたり、改善策を見出したりする。	○前時の学習を振り返り、広げる質問をしたことによって、新しい一面を知れたことを理解する。また、別のきき方があることにも気付く。 ○話し合いを通して「広げる」と「深める」のそれぞれの方法のよさは何かを考える。 予想される反応 広げる:たくさんのことが分かる いろいろな情報を手に入れることができる 深める:一つのことについて詳しく分かる どうして頑張っているかと、相手の気持ちについて知ることできる ○「きき手」の「きくこと」で大切なことについて自分の考えをもつ。	学びを深めるための工夫 【児童の実態に応じた手立て】 2つのウェビングマップを比較させることで、新たな一面を知るためには、意図に応じて広げたり、深めたりする質問をする必要があることに気付かせる。その後、追加の質問を考えたり、質問を見直したりすることで、実感をもって「きき手」としての力について考えをもつことができるだろう。 評価 「きき手」の役割に応じた「きくこと」で大切なことについて、相手の新しい一面を見出すという目的に向かって、自分が聞きたいことや相手が話したがつていることなどの意図に応じて、広げたり深めたりする質問を使い分けることに着目して、記述している。 【思・判・表】(ノート)
見 つ め る	○児童が学習計画を再構成する必要感を感ずるよう、適時的確に問いかける。 ・より「きくこと」の考えをレベルアップさせるには？(連続) ・レベルアップのために、目的や相手はどうすればよいかな？(発展性)	○「きく」力をさらに高めるために、<u>学びの山</u>を調整する。 ・より相手のエピソードを掘り下げられるようにしたい(目的) ・違う友達や先生方にインタビューをしてみたい(相手) ・もう一回同じ相手とやってポイントが有効かどうか確かめたい。(方法)	学びを見つめるための工夫 【変容を感じる振り返り】 学びの山を用いて学習過程を再構成し、習得した資質能力を発揮する場を設けることにより、子供たちの学びが連続性や発展性のあるものとなり、資質能力の拡張を実感し変容を感じるだろう。